MEDICINOVA
株主通信 Vol.7
決算のご報告
（2009年1月1日～2009年12月31日）

VOICE

笑顔のために…

みんなの笑顔をつくることができると、私共は信じています。

MEDICINOVA
メディシノバ

病(やまい)に苦しむ世界中の患者さんのために、新薬を創り、届けること。
それがメディシノバの使命です。

日本のすぐれた創薬技術をいかして、
安全で有効な新薬を世界へ届ける…。
患者さんの笑顔をつくることが、私達の仕事です。

会社理念

充分な治療法がまだ確立していない疾病を患う
世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより
社会に貢献すること。

基本経営方針

理念を具現すべく、こうした疾病の問題を改善する
医薬品の導入、開発、販売を手がける
グローバルな製薬会社を目指すこと。

皆様の厚いご支援をいただきながら、さらに臨床開発、導出活動に邁進いたします。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて2010年がスタートし、3分の1が経過しました。この間、MN-221の慢性閉塞性肺疾患（COPD）を対象にしたフェーズ1b臨床試験が終了し、投与量に相関した反応がはっきり現れる大変良い結果が得られました。静脈注射投与により確実に有効濃度の薬剤を体内に届けることができるMN-221には、COPDに対する従来の標準療法である吸入型のβ2アドレナリン作動薬よりも、高い効果が期待できます。喘息の急性発作に対する適応に加えて、COPDに適応を拡大することにより、MN-221の市場規模が大きく広がることを見込んでおります。

MN-166でも大きなニュースがありました。神経学において最も権威のある専門誌の一つである「Neurology」に当社の多発性硬化症を対象にしたフェーズ2臨床試験の結果が掲載されました。この中で、論者は、MN-166の明らかな臨床上の有益性を神経保護作用と関連付けています。さらに、パーキンソンやアルツハイマー病などその他の疾患に適用拡大する可能性があるとも述べています。MN-166は、昨年当社が買収したアヴィジェンにおいても、慢性神経因性疼痛及び薬物乱用治療への新しいアプローチとして開発されてきました。昨年12月に完了しました当社によるアヴィジェンの戦略的買収後、当社は、増強された前臨床及び臨床試験データ、承認済みまたは申請中の使用特許及びアナログ（類似体）特許などを含む、MN-166に関する開発プログラムを統合いたしました。

また、昨年は臨床開発、導出活動以外にIR活動、特に個人投資家向けの説明会に力を入れてまいりました。その成果もあり、2008年に比べ2009年度年間のヘラクレス市場における一日あたりの出来高は4,400株から44,900株へと10倍以上に増加し、流動性を重要なバロメーターの一つとしている機関投資家も参加しやすい環境が整ったと考えております。

今年もより多くの方々に当社の事業を理解していただけるよう努力を続けて参ります。

掲げた目標に向かって社員一同臨床開発、導出活動に邁進する所存でございます。株主の皆様におかれましては、今後とも当社への変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成22年5月

代表取締役社長兼CEO
（最高経営責任者）
岩城 裕一

執行役

岩城 裕一
代表取締役社長兼CEO
（最高経営責任者）

南カリフォルニア大学医学部泌尿器科学、外科学、病理学教授。1992年より移植免疫学・免疫遺伝学研究室ディレクター。取締役会長として創業設立より事業開発、資金調達等、事業全体の統括を支援。2005年9月よりCEO兼任。日本大学医学部、九州大学、および東京女子医科大学らの客員教授を兼任。南カリフォルニア大学医学部にて教鞭を執る以前は、1989年から1991年にかけてピッツバーグ大学医学部外科学・病理学教授を歴任。論文審査のある学術専門誌に200件以上の論文、ならびに40冊以上の本の執筆をてがける。20年以上にわたり研究および投資戦略に関して、（旧）山一証券、（株）ジャフコ、日本政策投資銀行などの顧問を務めると共にアヴィジェン、バイオアレー・ソリューションズ社などバイオテクノロジー企業数社の取締役を歴任する。札幌医科大学卒業。同校より医学博士号修得。

浅子 信太郎
副社長兼CFO
（最高財政責任者）

KPMG LLP会計事務所 監査担当シニア・マネージャーを経て2005年7月より現職。就任以来、財務報告、法令順守、経理・一般管理業務を担当。KPMGでは医薬業、製造業、販売業、運送業など多方面にわたる国際企業に対し監査やビジネスコンサルティングサービスを提供。またKPMG日系企業部のオレンジ郡とサンディエゴ地域立ち上げと拡張をてがける。KPMGの前職アーサー・アンダーセン LLP会計事務所では、4年間におよび監査や税務アドバイザリーサービスを提供。南カリフォルニア大学会計学部卒。米国公認会計士。

カーク・ジョンソン
副社長兼CSO
（最高科学責任者）

アヴィジェンにおいて研究開発担当副社長を務め2010年2月より現職。2004年から2009年にかけて（メディシノバによるアヴィジェン買収成立時）まで、アヴィジェンにおいて研究開発担当副社長を務める。2001年から 2004年にかけて、ジェネソフト・ファーマスーティカルス（Genesoft Pharmaceuticals）において、薬理学・前臨床研究の専務取締役及び上級執行役を務める。1991年から2001年にかけて、米国ワクチン最大手カイロン社（Chiron Corporation）のタンパク質及び低分子治療分野の研究開発部門に在席。ジョンソン氏は、これまでに約65の学術論文を発表し、また、米国において12件以上の発行済特許を有している。カリフォルニア大学デービス校より理学士取得。ヴァージニア医科大学より薬理学・毒物学の博士号取得。カリフォルニア大学バークレー校及びダートマス医科大学にて、博士課程修了後のフェローシップとして、インターロイキンⅡの作用機序を他の研究者と共同研究。

岡島 正恒
東京事務所代表、副社長

大和証券SMBC株式会社事業法人部上席次長を経て2006年9月より現職。大和証券SMBCでは、インベストメントバンカーとして、主にバイオベンチャー、メディア、通信、IT業界を担当。各種ファイナンス、M&A、IPO等において7年以上の経験を持つ。1996年から1999年にかけて、住友キャピタル証券株式会社市場営業部では、事業会社の資金運用ニーズに合わせ、仕組債をオーダーメード組成して販売していた実績を持つ。また、1991年から1996年にかけては住友銀行（現三井住友銀行）にて、支店業務、システム開発部、証券企画部を歴任。
東京理科大学理工学部経営工学科卒。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員。

取締役

アラン・ダントン
取締役、臨床開発担当顧問
アクティブバイオテックス社 取締役会長

ジェフ・ヒマワン
取締役会長
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社
マネージング・ディレクター

岩城 裕一
取締役
上記参照

繁田 寛昭
取締役
ザ・メディシンズ・カンパニー 取締役

ジョン・プレンダーガスト
取締役
サマー・クラウド・ベイ社 社長

アーリーン・モリス
取締役
アフィマックス社 社長兼CEO

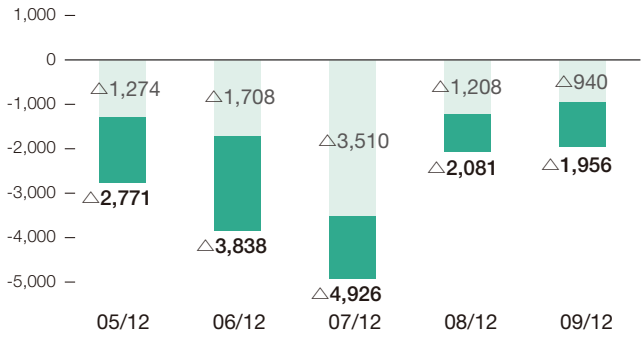
研究開発費が減ったことなどにより、営業損失、純損失ともに前期比で減少。

当期の営業損失は前期比で約1.3億円減、純損失は同じく約1.4億円減となり、2009年11月13日発表の修正通期業績予想に対してそれぞれ5.2%と5.7%の減少でした。

また予実対比では、営業損失が約1.5億円増、純損失が約1億円増となりました。これは、アヴィジェンの買収が進捗し、当初予想作成時点で予定していなかった買収関連費用が約2.5億円発生する一方、研究開発費が当初予定より約1億円少なくすんだことを主な要因としています。

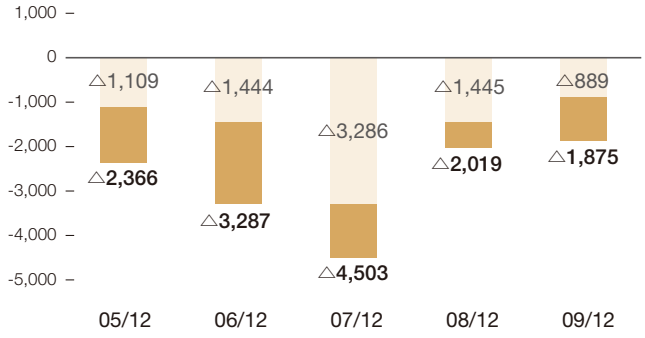
営業利益

（百万円）



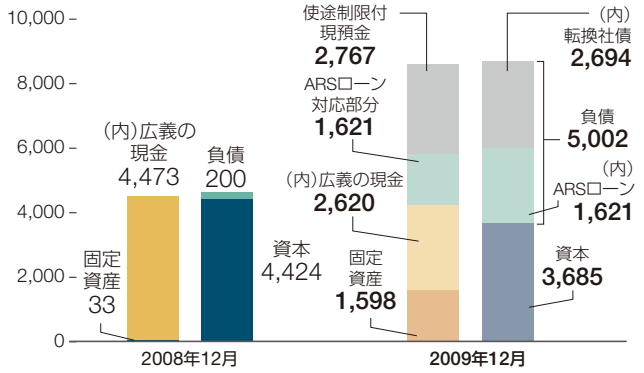
当期純利益

（百万円）



資産の内訳

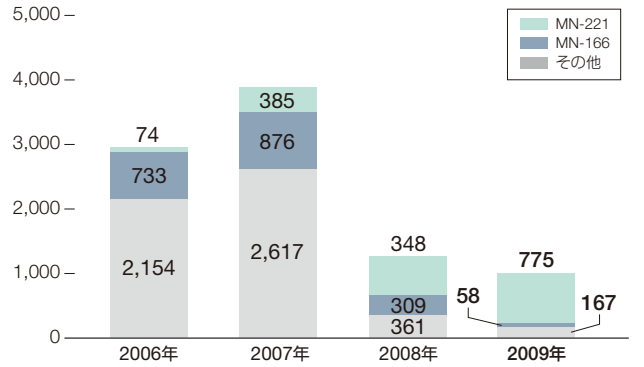
（百万円/単位未満切捨て）



	2008年12月	2009年12月	増減
広義の現金（百万円）	4,473	**2,620**	△1,853
資本合計（百万円）	4,374	**3,685**	△689
1株当たり純資産（円）	365	**305**	△60
1株当たり広義の現金（円）	373	**216**	△157
	2008年12月30日時点	**2009年12月30日時点**	
ヘラクレス市場時価総額（百万円）	2,378	**8,533**	+6,155

研究開発費の推移

（百万円/単位未満切捨て）



2009年研究開発費内訳

（百万円/単位未満切捨て）

開発品	費用
MN-221 気管支喘息急性発作	**775**
MN-166 多発性硬化症	**58**
MN-001 気管支喘息	**5**
MN-305 全般性不安障害	**0**
MN-001 間質性膀胱炎	**2**
MN-221 切迫早産	**0**

開発品	費用
MN-029 固形癌	**7**
MN-246 尿失禁	**1**
MN-447／MN-462 抗血栓	**—**
その他	**149**
開発費合計	**1,001**

注）メディシノバは米国企業で実際の決算は米ドルベースで行われておりますが、便宜上、三菱東京UFJ銀行の2009年12月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した中値1ドル=92.10円にて円換算しております。

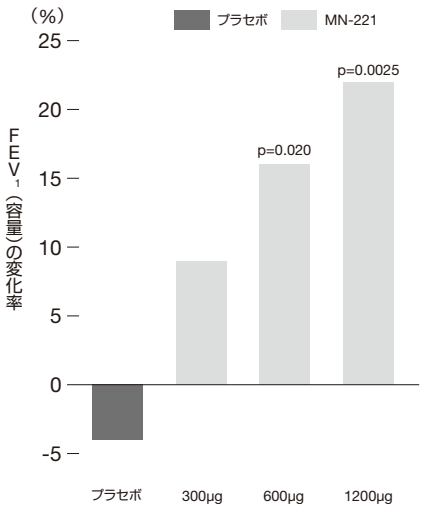
製品候補	パートナー	前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
コア開発品					
MN-221 気管支喘息急性発作 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	キッセイ	慢性閉塞性肺疾患(COPD)		気管支喘息急性発作	
MN-166 多発性硬化症 中枢神経疾患	Kyorin	中枢神経疾患		多発性硬化症	
ノンコア開発品					
MN-001 気管支喘息	Kyorin				
MN-305 全般性不安障害	田辺三菱製薬株式会社				
MN-001 間質性膀胱炎	Kyorin				
MN-221 切迫早産	キッセイ				
MN-029 固形癌	ANGIOGENE PHARMACEUTICALS LTD				
MN-246 尿失禁	田辺三菱製薬株式会社				
MN-447 & MN-462 抗血栓	Meiji				

MN-221とMN-166について

ここではメディシノバのコア開発品MN-221およびMN-166に対する理解を深めていただきます。
とくにMN-166でアヴィジェンより継承した薬物依存症治療薬としての開発についてご紹介いたします。

MN-221の開発状況

MN-221(CL-010):FEV_1(容量)の変化



2009年11月よりMN-221を慢性閉塞性肺疾患(COPD)の治療薬としてのフェーズ1b臨床試験をスタートさせ、2010年3月に良好な結果を得ることができました。この臨床試験は、安定期にある中等度から重度のCOPD患者約48名を対象として行いました。プラセボを対照とする無作為二重盲検比較による用量漸増方式を用いた本臨床試験では、患者は1時間にわたる点滴静注により、3種類の用量(300μg、600μg、1200μg)のMN-221またはプラセボの投与を受けました。本結果では、MN-221の投与を受けたすべての用量の患者群で、ベースラインおよびプラセボとの比較において、FEV_1(容量)※に関して臨床的に効果のある改善が認められました。600μgまたは1200μgのMN-221を投与された患者群では、プラセボとの比較で、最短で6時間の効果の持続が認められました。また、MN-221の投与を受けたすべての患者群において、良好な認容性が認められました。

静注投与により確実に有効濃度の薬剤を体内に届けることができるMN-221には、COPDに対する従来の標準療法である吸入型のβ2アドレナリン作動薬よりも、高い効果が期待できます。当社は、喘息の急性発作に対する適応に加えて、COPDに適応を拡大することにより、MN-221の市場規模の相当の拡大を見込んでおります。

※FEV1(1秒間努力吸気容量(一秒間)):呼吸機能検査の測定項目のひとつで、最大の努力で息を吐き出したときに、最初の一秒間で吐き出された息の量をいいます。これが低下すると気道が狭くなっていることを示唆します。

MN-166を薬物依存症治療薬へ

■薬物依存症とは

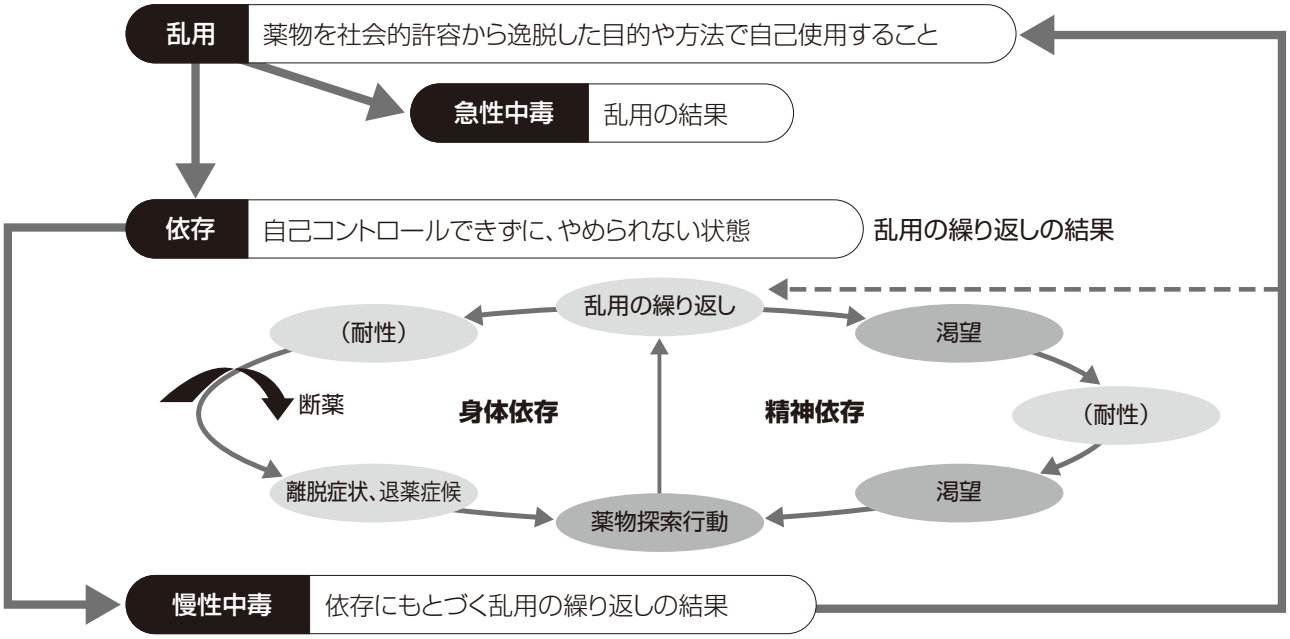
現在、ニューヨーク州精神医学研究所とコロンビア大学が共同で進めているフェーズ1b/2a臨床試験において、ヘロイン中毒患者におけるMN-166の安全性、認容性、薬物動態と効果の確認を行っています。MN-166は、薬物依存症の治療薬としてその効果が期待されています。

薬物依存症とは、薬物の使用によって本人の生活に何らかの重大な障害が生じているにもかかわらず、薬物摂取をやめられない、やめようとしても失敗してしまうほど薬物の使用に関してコントロールを失ってしまう精神障害を言います。

精神依存を引き起こす薬物のことを依存性薬物と言い、薬物を使うことを薬物使用と言いますが、その薬物を社会的許容から逸脱した方法・目的で自己使用することを薬物乱用と言います。依存性薬物の乱用の繰り返しは脳神経の異常を引き起こし、結果的にその薬物の使用に対する自己コントロールを喪失させてしまいます。その状態が薬物依存です。

薬物依存は精神依存身体依存に分けられます。身体依存では、その薬物が体に入っている時にはさほど問題を生じないが、切れてくると色々な不快な症状（離脱症状）を生じる状態です。この時、退薬時の苦痛を避けるために薬物を手に入れようと、薬物探索行動が起こります。一方の精神依存は、薬効が切れても離脱症状は出ませんが、快楽を得るために「薬を飲みたい」と強く渇望するようになって薬物探索行動に走り、薬物を再使用してしまう状態です。薬物依存では、薬物の使

薬物乱用・薬物依存・薬物中毒の関係



資料：和田清氏（国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部）作成

用を繰り返すうちに人体の慣れが生じ、同じ効果を得るためにだんだん摂取量を増やす必要が出てきます。この慣れを耐性と言います。
薬物依存に陥ると薬物乱用の頻度が増加していきます。その結果、薬物によっては脳にさらなる二次性の変化が起き、慢性中毒状態に陥ります。例えば幻聴が聞こえるといった状態になり、簡単には元には戻れなくなります。

MN-166においてはヘロイン中毒患者を対象に臨床試験を行っています。ヘロインはモルヒネ等と同じアヘン類の麻薬で、精神依存に加えてきわめて強い身体依存を形成する特徴があります。ヘロイン依存者で身体依存が形成されている場合、下痢・鼻水・目瞼下垂など激しい離脱症状を引き起こします。

参考文献：「こころのりんしょう」（通巻121号、星和書店刊）

■進行中のフェーズ1b/2a臨床試験の概要

- 目的：ヘロイン中毒患者におけるMN-166の安全性、認容性、薬物動態と効果の確認
- ニューヨーク州精神医学研究所とコロンビア大学が共同で進めている臨床試験（米国の国立薬物濫用研究所の資金提供により実施）
- 参加募集人数30名
- 2010年夏頃完了予定

臨床試験プロトコルと評価項目

週	1	2	3
治療法	モルヒネ（30mg、1日4回）とプラセボ（1日2回）	モルヒネ（30mg、1日4回）とプラセボ（1日2回）もしくはMN-166（20mg、1日2回）もしくはMN-166（40mg、1日2回）	プラセボ（1日2回）もしくはMN-166（20mg、1日2回）もしくはMN-166（40mg、1日2回）
評価項目	安全性、認容性、薬物動態	安全性、認容性、薬物動態	離脱スコア、安全性、認容性、薬物動態

■MN-166の概要

MN-166はキョーリン製薬から多発性硬化症治療薬としてライセンス導入し、炎症性疾患（喘息・脳梗塞）を対象とする臨床試験で安全性に関する多くの前臨床・臨床データを有しています。また、MN-166は過去20年以上にわたり、気管支喘息及び脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害治療薬として、日本・韓国において販売されており、およそ320万人の患者治療実績を有する認容性の高い薬剤です。MN-166はアヴィジェン開発品のAV411と同一化合物（イブジラスト）であるため、アヴィジェン買収に伴い2つの開発プログラムを統合しました。当社の実施したフェーズ2臨床試験で用いた一日30mg及び60mgのMN-166投与のデータに、アヴィジェンがすでに実施した臨床試験における、一日100mgのMN-166投与のデータが加わり、神経性疾患の治療薬としてMN-166の開発を続けるにあたり、より論理的根拠を得ました。

主なハイライト

IR説明会ハイライト

1月

- 喘息急性発作治療薬MN-221の急性発作患者を対象としたフェーズ2臨床試験（CL-006）の中間結果及び新しいフェーズ2臨床試験（CL-007）開始を発表

第24回 トリアスIRフォーラム（東京）

2月

平成20年12月期決算説明会（東京）

3月

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（札幌）

4月

- ホスピーラ・ワールドワイド社との開発供給契約締結（MN-221）を発表
- 喘息急性発作治療薬MN-221の急性発作患者を対象としたフェーズ2臨床試験（CL-006）結果を発表

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（東京）

5月

6月

- メディシノバ及びアヴィジェンの合併に向けた覚書締結を発表

平成21年12月期中間期決算発表および中間期決算説明会（東京）

7月

- 喘息急性発作治療薬MN-221の重度の急性発作患者を対象としたフェーズ2臨床試験（CL-007）の最終プロトコルを発表
- MN-221の慢性閉塞性肺疾患（COPD）を適応とする評価開始を発表

8月

- メディシノバとアヴィジェンの最終的な合併契約締結を発表

ロッドマン&レンショー年次グローバル・インベストメント・カンファレンス（米国ニューヨーク）

9月

- 繁田寛昭氏の取締役就任を発表

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（大阪）

モーニングスター社主催
個人投資家向けセミナー（東京）

10月

11月

- MN-221の慢性閉塞性肺疾患（COPD）を適応とするフェーズ1b試験開始を発表

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（福岡）

12月

- アヴィジェン買収完了を発表

2010年
1月

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（熊本）

2月

- カーク・ジョンソン氏のチーフ・サイエンティフィック・オフィサー（CSO）就任を発表

日本証券新聞社主催 個人投資家向けセミナー（名古屋）

第4回株なびカンファレンス（東京）

3月

- MN-221のCOPD（慢性閉塞性肺疾患）を適応とするフェーズ1b臨床試験（CL-010）結果を発表

株式にっぽん協賛個人投資家説明会（東京）

平成21年12月期決算説明会（東京）

新たに個人投資家向けサイト「IR club」をオープンしました

当社の成り立ちから事業内容やビジョン、さらに株式の基礎知識などを掲載した、個人投資家の皆様にわかりやすいIRサイト「IR Club」を当社ホームページ内に開設いたしました。スタッフの顔が見えるインタビュー映像や、読みやすい電子ブック形式のマンガなど、楽しみながら当社を知っていただける工夫を盛り込んでいます。ぜひご覧ください。

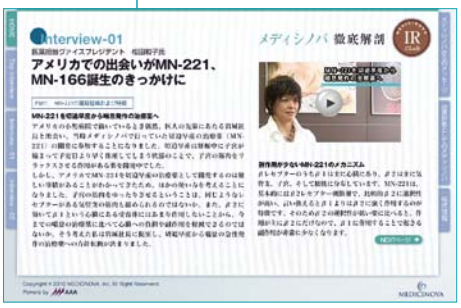
Top Interview

メディシノバからのメッセージ

IR clubトップページ

電子ブック

Interview-01



Interview-02

電子ブック

マンガには、画面上をクリックしてページをめくっていける、通常の本感覚で読める電子ブックを採用しました。サムネールをクリックすれば見たいページにいける目次機能や、付せん機能、検索機能なども便利です。

貸借対照表

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前期末（2008年12月）	当期末（2009年12月）	増減額
資産の部			
流動資産	1,843	**4,321**	+2,478
固定資産	2,782	**4,365**	+1,583
有形固定資産	33	**14**	
投資その他の資産	2,748	**3,067**	
資産合計	4,625	**8,687**	+4,061
負債の部			
流動負債	200	**2,065**	+1,864
固定負債	—	**2,937**	+2,937
負債合計	200	**5,002**	+4,801
純資産の部			
株主資本	4,427	**3,691**	△736
資本金	1	**1**	
資本剰余金	25,452	**26,584**	
開発段階での累積欠損	△20,905	**△22,781**	△1,876
自己株式	△121	**△113**	
評価・換算差額等	△2	**△5**	△3
純資産合計	4,424	**3,685**	△739
負債及び純資産合計	4,625	**8,687**	+4,061

損益計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前期（2008年）	当期（2009年）	増減額
営業収益	—	—	
営業費用	2,081	**1,956**	
営業利益	△2,081	**△1,956**	+125
営業外損益	187	**82**	△105
税金等調整前当期純利益	△2,018	**△1,875**	+143
税金費用	△1	**0**	+1
当期純利益	△2,019	**△1,875**	+143

キャッシュ・フロー計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前期（2008年）	当期（2009年）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,945	**△1,567**
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,984	**△104**
財務活動によるキャッシュ・フロー	7	**1,666**
現金及び現金同等物の増減	47	**△5**
現金及び現金同等物の期首残高	1,729	**1,777**
現金及び現金同等物の期末残高	1,777	**1,772**

CHECK POINT

広義の現金約26億円を有し、2010年12月31日までの営業活動資金を十分にカバーしています。

※広義の現金=「現金及び現金同等物」+「投資有価証券+ARSプット」−「ARSローン」（ただし、プットでカバーされていない長期投資有価証券を除く）

CHECK POINT

ARSローンによる借入を実行したこと及び、アヴィジェン買収に伴う第2回支払対価をエクスローホールドバックとして計上したため、流動負債が約19億円増加しました。

CHECK POINT

アヴィジェン買収に伴い、転換社債約27億円を発行、対応する資産として使途制限付現預金を固定資産に計上しています。

CHECK POINT

ストック・オプションに係わる株式報酬費用及び、ストック・オプションの行使により払込剰余金約3億円を計上し、アヴィジェン買収に係る転換社債の含み益約9億円を計上しましたが、研究開発による累積欠損が約18億円増加したため、資本合計が約7億円減少しました。

CHECK POINT

MN-221喘息急性発作及びCOPD治療薬の開発費用の増加や、アヴィジェン買収に伴い一般管理費が増加したものの、MN-166多発性硬化症治療薬のフェーズ2臨床試験完了及びノンコア開発品の臨床試験完了に伴う費用の減少により、営業損失が約1億円減少しました。

CHECK POINT

米国景気後退による金利の低下で受取利息が減少し、営業外収益は約1億円減少となりました。

株主資本等変動計算書（2009年1月〜2009年12月）

（百万円/単位未満切捨て）

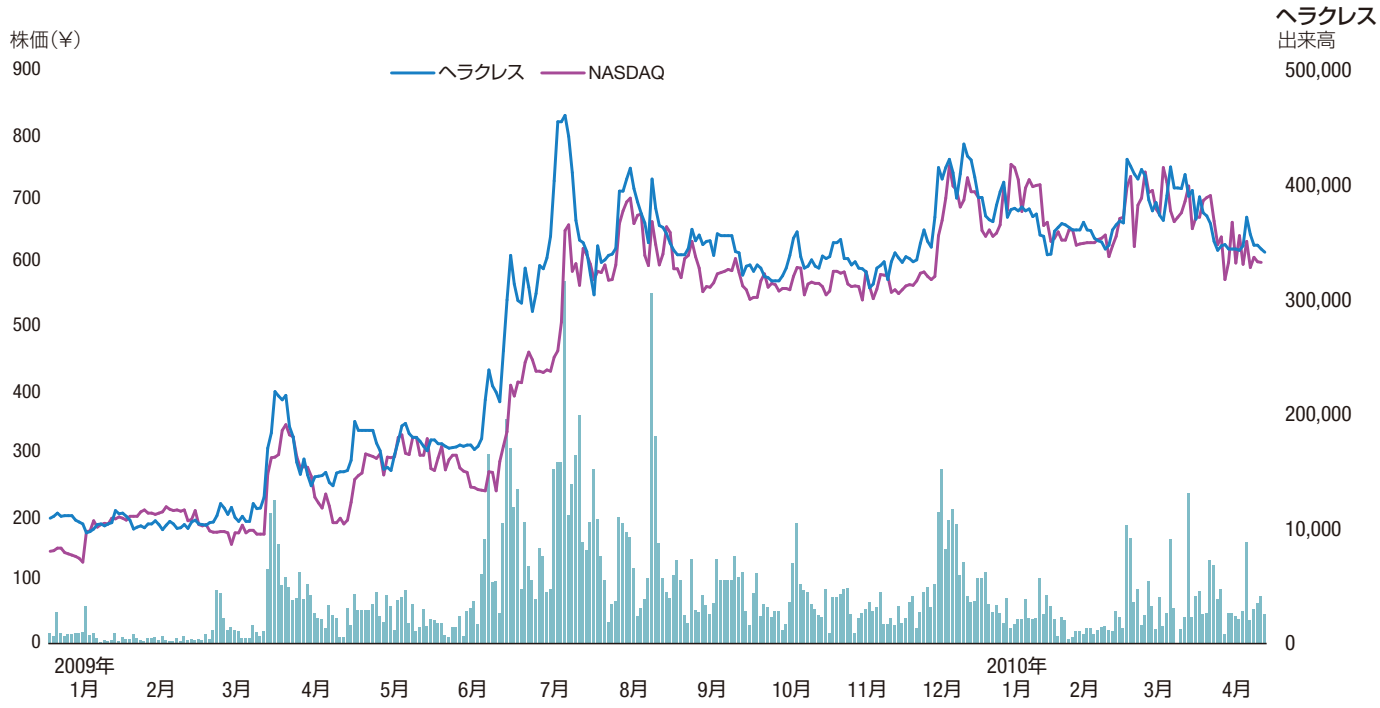
	資本金	資本剰余金	開発段階での累損欠損	自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等	純資産合計
2008年12月31日現在残高	1	25,452	△20,905	△121	4,427	△2	4,424
連結会計期間の変動額							
従業員株式報酬費用	—	218	—	—	218	—	218
オプション行使	9	37	—	—	37	—	37
アヴィジェン買収に係る償還の公正価値	—	876	—	—	876	—	876
新株発行：従業員株式購入プラン	—	—	—	7	7	—	7
包括損失							
当期純損失	—	—	△1,875	—	△1,875	—	△1,875
その他の包括損失	—	—	—	—	—	△3	△3
包括損失合計	—	—	△927	—	△927	△3	△1,879
連結会計期間の変動額合計	—	127	△927	3	△927	△3	
2009年12月31日現在残高	1	26,584	△22,781	△113	3,691	△5	3,685

注）米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。三菱東京UFJ銀行の2009年12月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した中値1ドル=92.10円にて円換算しております。

発行可能株式総数	30,000,000株（2009年12月31日現在）	純資産	36億85百万円（2009年12月31日現在）
発行済株式の総数	12,172,510株（2009年12月31日現在） （自己株式50,293株を含む）	株主数	6,858名（2009年10月30日現在）

［大株主］（2009年10月30日現在）

株 主 名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ・ファンド VI・エルピー	1,170,370	9.6
イワキ・ファミリー・リミテッド・パートナーシップ	592,851	4.9
BNPパリバ・ウェルス・マネジメント・香港	305,900	2.5
ジャフコG-(9) (A) ベンチャー・キャピタル・インベストメント・リミテッド・パートナーシップ	290,400	2.4
UBSフィナンシャル・サービス・インク	279,983	2.3



株主メモ

証券コード	ヘラクレス 4875
決算期	12月31日
売買単位	100株（ヘラクレス）
株式事務取扱機関	大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都府中市日鋼町1番10号 住友信託銀行株式会社　証券代行部
株主名簿管理人	American Stock Transfer & Trust Company （アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー） 6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA 電話 +1 (718) 921-8217 E-mail ssilber@amstock.com

MEDICINOVA

メディシノバ 東京事務所
〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-5 新橋中央ビル5F
TEL:03-3519-5010 FAX:03-3593-2721

R100 PRINTED WITH SOY INK™
100%再生紙、大豆インキを使用しております。